

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

工 程

1 他工事等との調整 (対象 有)

- 1 本工事区間の始点側では、「R1徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)」, 終点側では、「街路工事(高架橋上部工事P13(P10)~P16)」を実施中である。
高架橋下部工事は令和3年5月16日に完成予定であり, 高架橋上部工事のうちP13(P10)~P14径間の架設工事は令和3年5月中に完了予定である。
よって, 本工事は令和3年6月1日から鋼管杭工の着手を見込んでおり, 鋼管杭の工場製作期間を考慮した上で工事着手日を令和3年3月1日とする。
ただし, 上記工事の予定変更に伴い, 工事着手日に変更が生じる場合は, 監督員と協議することができる。

2 施工の制限(対象 無)

3 作業時間帯(対象 有)

本工事の作業時間帯は, 下記に示すとおりとする。なお, 関係機関等との調整の結果, 作業時間帯に変更が生じた場合は, 速やかに監督員と協議するものとする。

工種	種別	時間帯	期間
全工種	—	平日 午前8時から 午後5時まで	工期内

なお, 本工事の施工にあたり, 関係機関・自治体等から時間的制約条件を付された場合は, 速やかに監督員と協議するものとする。

4 工事履行報告書(対象 有)

監督員が工程を把握し必要に応じて工事促進の指示を行う必要があるため, 設計図書に基づき工事履行報告書を作成するものとする。

5 その他(対象 無)

用地関係

1 鋼管杭仮置きについて(対象 有)

本工事の現場内は狭隘につき, 資材搬入時期や搬入数量等を考慮のうえ施工すること。

2 仮置ブロック(対象 無)

支障物件

受注者は, 工事着手前に必ず工事施工箇所の支障物件について確認し, 監督員に「支障物件確認書(現場着手時)」を提出し, 監督員の確認を受けた後, 工事に着手すること。

特に仮設鋼矢板の施工範囲は, 事前に残存地下埋設物の有無を確認し, 施工すること。

1 支障物件の事前調査(対象 無)

2 支障物件の撤去(対象 無)

3 立木の置き場所(対象 無)

4 その他(対象 無)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

公害対策

1 事業損失防止対策(対象 無)

2 濁水処理(対象 有)

工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書及び以下によるものとする。

処理能力: 30～60m³/h

凝集剤等: 無機凝集剤(PAC) 1,990kg, 高分子凝集剤 40kg, 炭酸ガス 490kg

放流基準: 「生活環境の保全に関する環境基準」の類型(河川C)における水素イオン濃度(pH)の基準値(6.5以上8.5以下)を目標とする。

運転日数: 61日

なお、これにより難しい場合は、監督員と別途協議するものとする。

3 低騒音型・低振動型建設機械(対象 有)

本工事は低騒音型・低振動型建設機械の使用を見込んでいる。なお、これによりがたい場合は監督員と協議するものとする。

4 六価クロム溶出試験(対象 無)

安全対策

1 交通安全施設等(対象 有)

交通安全施設等について、関係者との協議により、通常想定される施設等と大幅に異なる場合には監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

2 交通誘導警備員(対象 有)

本工事の交通誘導警備員は次のとおり見込んでいる。なお、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議するものとする。

配置場所	現場	高架下
必要日数	98日	39日
交通誘導警備員A	98人(交替要員無し)	人(交替要員[有り・無し])
交通誘導警備員B	98人(交替要員無し)	39人(交替要員無し)

3 足場通路等からの墜落防止措置(対象 有)

高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。

4 残土置き場の安全対策(対象 有)

残土仮置き場周辺(徳島市住吉6丁目)においては、徳島東環状線Eランプ及びFランプが近接していることから、土砂の搬入搬出については、十分な安全対策を講じたうえで施工することとし、その内容については監督員と協議するものとする。

5 歩道の安全対策(対象 有)

施工箇所は東西を現道に囲まれており、施工ヤードを確保するために現道の歩道幅員を縮小している。このため、工事ヤード内だけでなく、東側の官民境界までを工事で管理し、歩道の安全を確保するために十分な安全対策を講じること。

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

建設副産物

1 建設発生土の利用(対象 無)

2 建設発生土の搬出(対象 有)

本工事の床掘土については、次に掲げる仮置場に搬出し、一時仮置きすること。

工事名	—
箇所名	徳島市住吉6丁目(高架下残土仮置場)
運搬距離	現場～高架下残土仮置場 L=1.5km以下

本工事の建設発生土(床掘土)の一部については、次に掲げる工事に搬出すること。なお、受入側との協議等で搬出が困難な場合は、監督員と協議するものとする。

工事名	津田地区活性化整備事業
箇所名	徳島市津田海岸町2丁目
運搬距離	高架下残土仮置場～津田埋立地L=5.2km

3 再生利用のための建設副産物の搬出(対象 有)

- 1 受注者は、本工事の施工により発生する次の建設副産物について、再資源化を行うため産業廃棄物中間処理許可施設(再資源化施設)へ搬出すること。また、搬出に際しては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守しなければならない。
- 2 受注者は、建設副産物の搬出前に受入場所・条件等について、監督員と協議するものとする。
- 3 自己処理を希望する場合は、監督員と協議するものとする。
- 4 受入先との協議の結果、再資源化が困難である場合は、監督員と協議するものとする。

	コンクリート塊	アスファルト塊	木材	汚泥	その他
対象物				○	

4 最終処分のための建設副産物の搬出(対象 無)

5 建設汚泥の自工事現場内における再生利用(対象 有)

本工事の施工により発生する建設汚泥の内、次表に掲げるものについては、中間処理を実施した上で、本工事内で再生利用するものとする。

ただし、現場状況等により再生利用を実施し難い場合には、監督員と協議するものとする。

全体発生数量	730 m ³
再生利用数量	630 m ³
再生利用場所	現場内 (床掘(フーチング・汚泥ピット)箇所,現場数均し)
再生利用目的	埋戻し

※現場での再生利用が困難な汚泥については再資源化施設へ搬出すること(100m³(=730-630))

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

6 建設汚泥の中間処理方法等(対象 有)

本工事において実施する建設汚泥の中間処理については、次のとおりである。なお、この方法により難しい場合には、監督員と協議するものとする。

工法	バックホウ混合
使用凝集剤	セメント
添加量	建設汚泥1m3につき 50 kg (※最小添加量)
改質土の強度	200 kN/m ² (コーン指数)
再生利用場所	現場内(床掘(フーチング)箇所)
再生利用目的	埋戻し

※ただし、試験により、最小添加量以下となることを確認すること

7 建設汚泥処理土の利用(対象 無)

8 建設汚泥処理土の搬出(対象 無)

9 剥ぎ取り表土の利用(対象 無)

10 一般廃棄物の搬出(対象 無)

11 根株等の利用(対象 無)

12 根株処理工の出来高の算出(対象 無)

工 事 用 道 路

1 工事用道路等の補修(対象 有)

残土搬出等に伴い、現道補修および防塵処理等の必要が生じた場合には、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

仮 設 備

1 床掘(対象 有)

床掘の施工に際し、安全管理上特別な対策を講ずる必要が生じた場合は、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については、変更契約できるものとする。

2 鋼矢板等の打込引抜工法(対象 有)

鋼矢板の打込方法として、工区が店舗、住宅等に近接している現地条件から油圧圧入引抜工法を見込んでいる。

なお、着手前に監督員と施工方法を協議した上で実施するものとし、工法等が変更となる場合は、監督員と協議するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

3 仮囲い工(対象 有)

本工事の施工に際して、近接する現道交通の安全を確保するため、工区周囲に仮囲いを設置することとしている。(設置はR1高架橋下部工事で実施済みで、損料と撤去費用を計上している。)

位置及び延長 工区周囲 L=418m

主たる形状 丸パイプ土中打込 H=3.0m
式

また、仮囲いの供用期間は、195日間を見込んでいる。

なお、着手前に監督員と施工方法を協議した上で実施するものとし、形状等が変更となる場合は、監督員と協議のうえ、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

4 仮締切り(土留)(対象 有)

底版の施工における鋼矢板による締切りは、下記により実施すること。

矢板天端高 TP+0.92以上(P8)
TP+1.05以上(P9)

主たる形状	鋼矢板Ⅲ型	L=7.0m (P8)
	SY295 SP-Ⅲ型	L=7.5m (P9)
	腹起し材等	H=400×400×13×21 (P8・P9)

鋼矢板及び腹起し材等の供用期間は、以下の日数を見込んでいる。

種別	P8	P9
鋼矢板	169日	164日
腹起し材等	18日	20日

なお、引き渡し時期、設置期間が変更となる場合は監督員と協議するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

5 鋼矢板二重締切(対象 無)

6 水替施設(対象 有)

本工事の施工に必要な排水規模は、次のとおり見込んでいるが施工時において大幅な変更が生じた場合には、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については、変更契約できるものとする。

イ. 設計外水位	(P8) TP+0.56	(P9) TP+0.52
ロ. 排水量・常時排水	(P8) 40m ³ /h以下	(P9) 40m ³ /h以下
ハ. 締切方法	鋼矢板締切	
ニ. 供用日数	(P8) 45日	(P9) 49日

なお、規格および矢板長は次表のとおりである。

形式	長さ	矢板天端高
鋼矢板Ⅲ型 SY295	L=7.0m(P8) L=7.5m(P9)	TP+0.92以上(P8) TP+1.05以上(P9)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

7 異常出水の処置(対象 有)

- 1 橋脚工の施工に際して、出水等に対する追加の仮設物の必要が生じた場合は、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。
- 2 異常出水に伴って、仮設構造物の撤去の必要が生じた場合には、監督員と協議を行って実施するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。

8 敷鉄板の設置(対象 有)

イ. 場所	汚泥攪拌ピット 埋戻後養生	現場杭置場	高架下仮置場 (改良土置場)	高架下仮置場 (通路)
ロ. 規格	22×1524×6096	22×1524×6096	22×1524×6096	22×1524×6096
ハ. 供用日数	116日	69日	176日	176日

その他

1 図面の電子納品(対象 有)

本工事で提供する発注図面は、CADデータ(SFC形式)であるため図面を電子納品の対象とする。なお、発注図面については次のとおりである。

CAD製図基準に準拠していない。

2 標準断面図板設置の省略(対象 無)

3 しゅん工標設置の省略(対象 無)

4 同一の場所において施工する工事同士の現場代理人の兼務(対象 無)

※現場代理人の兼務については、同一の場所において施工する工事同士の兼務のほか、仕様書に記載された要件を全て満たす場合についても兼務を認めている。

5 三者会議※(対象 有)

本工事は、三者会議対象工事とする。

三者会議の開催は、工事着手前に実施し、施工条件の変更等の問題が生じた場合には必要に応じ、監督員と協議を行って、複数回開催することができる。

※「三者会議」とは、発注者と受注者と設計者の三者が一堂に会することにより、設計者の意図や施工上の留意点を受注者に的確に伝え、設計図書と現場との整合性を確認協議することにより、工事施行の円滑化と品質の確保を図ることを目的とし実施する。

なお、基礎杭や大規模仮設等専門性の高い工種を伴う工事では、施工者に専門工事業者(下請)の主任技術者を加え会議を実施する。

また、地質構造の複雑な箇所、地形の変化が大きい箇所等、特に地質情報の不確実性が高い現場における工事や地質技術者が参画することで当該工事の品質確保が図られると認められる工事では、地質技術者を参加させ会議を実施する。

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

6 コンクリートの単位水量の測定(対象 有)

受注者は、次の表に示す工種について単位水量測定を所定の回数実施し、単位水量の管理シートを作成するものとする。

工種	配合	使用量	測定回数
P8鋼管杭 中詰コンクリート	30-12-25(20)	24m ³	1回
P8橋脚 底版コンクリート	30-12-25(20)	224m ³	3回
P8橋脚 躯体コンクリート	30-12-25(20)	120m ³	3回(1回×3日)
P9鋼管杭 中詰コンクリート	30-12-25(20)	24m ³	1回
P9橋脚 底版コンクリート	30-12-25(20)	224m ³	3回
P9橋脚 躯体コンクリート	30-12-25(20)	120m ³	3回(1回×3日)
合計(回)			14回

7 中掘杭工法(セメントミルク噴出攪拌方式)(対象 有)

本工程鋼管杭の先端支持に使用するセメントミルクは、次の配合条件を満足するものとする。

また、受注者は品質・配合について、施工前条件等が分かる資料を提出して、監督員の承諾を得なければならない。

<セメントミルク>

設計基準強度	水セメント比
20N/mm ²	60%~70%

8 水抜孔(対象 無)

9 種子吹付(対象 無)

10 植栽樹木の植え替え義務(対象 無)

11 使用材料の品質、規格、性能等(対象 無)

12 LED道路・トンネル照明灯の品質、規格、性能等(対象 無)

現場説明書

工事名: R2徳環 徳島東環状線 徳・末広3 高架橋下部工事(担い手確保型)(着手日指定型)

13 使用材料の品質規格等(製品名表示)(対象 有)

本工事に使用する材料(工法)については、次表に示す規格品質等を満足する材料(工法)とし、施工前に材料使用承諾願を監督員に提出しなければならない。

なお、次表に示す製品以外でも、品質規格等が同等と認められる場合は使用することができるものとする。

機械式鉄筋定着工法一覧表: 土木

No	工法名	審査名称	審査番号	審査年月	鉄筋仕様	固定材材質	適用鉄筋径	コンクリート強度(N/mm ²)	定着体種別
				(更新)					
1	Tヘッド工法	土木研究センター	建技審証第0314号	2013.11 (内容変更・更新)	SD295~490	-	D10~51	24以上	加熱成形
2	Head-bar	土木研究センター	建技審証第0408号	2015.11 (内容変更)	SD295~490	SM490, S45C	D13~51	21以上	摩擦圧接工法
3	プレートフック工法	土木研究センター	建技審証第0511号	2015.11 (更新)	SD295~345	FCAD1200-2	D13~51	21以上	螺合グラウト固定
4	フリッパー	土木研究センター	建技審証第0903号	2014.04 (内容変更・更新)	SD295A~490	非調質鋼	D13~51	24~60	摩擦圧接接合
5	TPナット工法	土木研究センター	建技審証第1010号	2016.2 (内容変更・更新)	SD295~490	JIS G4051	D13~35	21以上	ネジ接合
6	タフナット	土木研究センター	建技審証第1301号	2013.4	SD295A~490	S45C熱処理品 または鍛造品	D13~51	24~60	螺合、嵌合鋼線 貫入による固定

14 県産木材の使用(県産木製型枠以外)(対象 無)

15 新技術の活用について(対象 無)

16 アスファルト舗装工事(施工途中の交通開放)(対象 無)

17 各種様式

各種様式については、下記徳島県ホームページよりダウンロードすること。

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/2009091500237>